

新宮山産ぐるーぷ第2039回

行仙宿巡回整備と現場検証

◇実施日；2019年8月25（日） 晴

◇参加者…沖崎吉信、児嶋道夫、橋本梓、生熊敏男、畑清子、

大江加代子・徳子、上村洋司・和美、梶野照雄

（10名）

暑かった夏もようやく終わりが見えてきたようで、朝の最低気温が22度ほどになって車のエアコンを使うことなく池原まで走ることが出来た。先日の川島さん急逝の日に、吉野警察署で4時間近く事情聴取を受けたが、今度は現場検証とまだ事情聴取が済んでいない生熊、上村和の2人から話を聞きたいと要請があり、行仙小屋の整備もかねて登山口に向かった。



女性陣登り始める



林道の側溝を掃除



現場へ向かう

現場検証は午前10時に下北山村役場駐車場で待ち合わせだが、台風の大雨で林道に流れ出た石を取り除くため、午前9時過ぎに登山口に着いた。スコップを持って石を取り除く。20分ほどで車幅分の除去が終わり車の底が当たることは無くなった。持ってきた段ボール箱の焚き付けをモノレール終点まで荷揚げした。9時50分に大江車が到着、その後児嶋さんもトラックで到着する。10時過ぎに女性陣が徒歩で登り始める。上村洋、橋本、児嶋、梶野で石の詰まった側溝を掃除する。あらかた取り除き、流れが戻ってきたところに沖崎車と県警の車が到着。刑事課の3名と鑑識の1名だった。



再び登山口に戻る

床を拭き掃除

楓の斜木を切除

本日の現場検証の説明があり、検証が始まる。モノレールの寸法測定や使用状況の説明の後、駐機小屋先の現場に移動して発見時の様子を再現。再び登山口に戻って、生熊、上村和の2名は事情聴取を受ける。刑事課の署員と鑑識の1名、合計2名が沖崎さん運転のモ

ノレールで終点まで登って、新橋の鋼材を確認、私は徒歩で登って少し遅れて到着。その後架け替え予定の現場まで2人を案内する。鋼材を人力で運搬する苦勞が判ってもらえたようだった。

モノレール終点に戻ると沖崎さんの姿がない。事情聴取中の2人を迎えに行ったようだ。しばらく署員2人と話をしながら待つが、10分、15分経つてもモノレールが上がってくる兆しがない。

午後1時半になろうとしていたので、小屋に上がることにした。署員2人は「遅いな」と言いながら徒歩で下山した。

午後2時、ようやく行仙宿小屋に着いて昼食を摂る。

小屋内のマットやカーペットは全部外に出されて、床は雑巾がけがされていた。土間の奥にあったものも全て運び出されて、水たまりもほぼ解消されていた。床にはカビが発生していたらしく、雑巾がけに時間がかかり、管理棟迄手が回らなかったそうだ。

上村洋さんが沖崎さんからの無線を受信、「小屋迄登らずに登山口で待つ、作業を適当に切り上げて下山してほしい」と告げられた。上村洋さんは程なく下山をはじめ、残りのメンバーも後片付けを始めた。

私はチェーンソーを倉庫から出して、管理棟少し下の登山道に被さっていた楓を切除した。下山を開始したメンバーが枝の排除などを手伝ってくださった。

これから水場を見に行くので、先に帰ってくださいます、と伝えて下山メンバーと別れた。

先週は時間切れで水場確認ができなかった。台風の後で、どうしても水場の確認が必要なため、何も持たずに急いで降りた。

水場までの道は枯枝多数、大きな物は3m近くあるが全部排除でき

た。水場の階段上まで来てビックリ。落石は予想していたが、長さ4m位の腐木が横たわっていた。昨年の落石のような大きなものは無いようだが、この枯木が石を排除するだけで動かせるのか、チェーンソーを必要とするのか、実際にやってみないと解からない。



水場迄は枯枝多数



落石や腐木で埋まった水場



午後になって気温が上がったので、小屋に戻るまでに大汗をかけた。小屋前のベンチに座って、10分ほど休憩の後下山を始めた。

第一ベンチで少し休んで登山口に下山。当然だが車は一台だけになっていた。

後日、沖崎さんにお聞きすると、登山口での事情聴取は2時間に及び、その間食事する事も無く、終わってみれば午後2時だったそう。

お疲れ様でした。

(記：梶野)

## 行動タイム

09:05 登山口→12:30 モノノレール終点→12:45 丸太橋→13:05 モノレール終点  
13:28→14:00 行仙宿小屋 14:40→水場 15:03→15:33 行仙宿小屋  
15:45→16:17 登山口